

## 地域の防災体制づくりに貢献したい

防災はまず、自分の身は自分で守ることが大切です。災害が発生した場合、行政や消防による救援や救助がすぐに来るとは限りません。防災はまず自助。そして、地域の防災リーダーを中心とした共助が必要で、です。防災訓練に参加するときは、強い危機感を持ちながら行っていたら

いですね。そういった意識の高まりが、自分たちのまちは自分たちで守るという意識を高めることにつながるのではないのでしょうか。

**防災士を活用して**

そこで、私たち防災士は、その知識と経験を役立てられればと考えています。地域の防災訓練などに協力し、地域の防災リーダー育成や防災意識の高まりにつなげたいです。また、行政や様々な団体と連携し、ボランティアがスムーズに活動できる体制づくりに取り組みたいです。

## 防災はまず自助 次に共助が必要



● **防災士の視点**  
 特定非営利活動法人日本防災士会理事兼九州ブロック支部連絡協議会会長  
 つかだ よしお  
**東田 義夫 さん**

新燃岳の現状や今後の見通しはどうか。  
 2月14日、防災講演会in小林市が中央公民館で開催されました。約130人が参加し、2人の専門家から噴火の見通しなどについて学びました。

**享保噴火に類似 引き続き警戒必要**  
 — 小林哲夫教授

現在、新燃岳は静かですが、このまま噴火をしないとは限りません。マグマの供給があれば噴火する可能性があります。

今回の新燃岳の噴火は、約300年前の享保噴火（1716年3月の噴火から約1年半活動が継続。火砕流や火山灰などで多くの被害が出た。）に似ています。今後は、享保噴火より大規模か同程度、または小さいことも考えられます。このまま静まることも否定できません。噴石は、小さな石なら家の中でも大丈夫なので、無理に動かさず冷静



に対応してください。

**気象庁の情報 防災に役立てて**  
 — 田代憲一 台長

気象庁では、観測体制を強化して、火山活動を注意深く監視しています。気象

## 新燃岳噴火から1年

## 小林市防災マップを配布します

小林市では防災マップを作成しました。3月15日号のお知らせとともに世帯に配布します。防災や避難所の確認にお役立てください。

● 問：総務課 TEL 23-0220



## 噴火警報継続中

▶ 中央公民館で行われた防災講演会

**防災について 考えてみませんか**

新燃岳は現在、小康状態にあります。しかし、いつ噴火するかわからない状況にあることも事実です。昨年の噴火や東日本大震災に伴い、皆さんの防災に対する意識は高まっている

## 災害に想定外はありません

● **行政の視点**  
 総務部  
 おおさこ としふみ  
**大迫 利文 危機管理監**



小林市では、新燃岳の噴火をはじめ、いつ大きな災害が起きても想定外とはいえない状況にあります。災害時にあわて

ず行動するには、日頃の備えが必要です。今回配布する小林市防災マップには、災害に備えて決めておくことや準備する物などを記入する欄があります。ぜひ活用ください。

## 防災マップを災害の備えに活用して

のではないのでしょうか。災害の被害をゼロにすることは困難です。しかし、日頃の備えでそれを軽減することが出来ます。自分や家族、大切な人を守るために、防災と備えについて考えてみてはいかがでしょうか。

庁が発表する噴火警報などの情報に注意してください。宮崎地方気象台のホームページは、新燃岳上空やその周辺の風向きや予想降水量などの情報・支援資料を公開しています。皆さんの防災対策にぜひ活用ください。また、宮崎地方気象台では、警報や注意報などの防災気象情報を発表し、テレビやラジオの気象情報番組やデータ放送を通じて広く皆さんへお知らせ



宮崎地方気象台ホームページ  
<http://www.jma-net.go.jp/miyazaki/>

しています。また、インターネットや携帯電話でも気象情報や観測データが確認できます。防災情報にお役立てください。

● **防災講演会講師**  
 鹿児島大学大学院  
 理工学研究科  
 こばやし てつお  
**小林 哲夫 教授**



● **防災講演会講師**  
 国土交通省気象庁  
 宮崎地方気象台  
 たしろ けんいち  
**田代 憲一 台長**

